

# 国際看護研究会 NEWSLETTER

No.73



2014. 4. 15 発行

本号の内容は以下のとおりです。

- |                           |       |      |
|---------------------------|-------|------|
| I. 第 75 回運営委員会報告          | _____ | p. 1 |
| II. 年会費値上げのお願い            | _____ | p. 2 |
| III. 第 72 回国際看護研究会講演会報告   | _____ | p. 3 |
| IV. 第 73 回国際看護研究会講演会のお知らせ | _____ | p. 3 |
| V. 国際看護研究会第 17 回学術集会のお知らせ | _____ | p. 3 |
| VI. 皆様へのお願い・お知らせ（事務局より）   | _____ | p. 4 |

※本文に記載されている振込先やメールアドレスについては、現在は使われておりませんのでご注意ください。

## I. 第 75 回運営委員会報告

国際看護研究会第 75 回運営委員会は 2014 年 3 月 15 日（土）に JICA 地球ひろばで開催された。第 17 回学術集会準備状況について報告と議論が行われた。9 月 27 日（土）にキャンパスプラザ京都で開催されることになった。東京以外で学術集会を開催するのは研究会初めてである。関西在住の会員に協力を依頼することを含め、数点の提案を運営委員会から会長に行うことにした。第 16 回総会（2013 年 9 月開催）で 2014 年度からの会費値上げが承認されたが、会員への周知、振込書への記載等について検討した。また会費未納者の取り扱いについて協議し、転居によりニュースレターが未着の会員は翌年 6 月に退会扱いとし、2 年間の未納者は 3 年目の 6 月に督促を行い、翌 7 月末までに納入されなければ退会とすること、未納分を払うことにより会員として復帰できることを確認した。会員増対

策について意見交換を行い、インターネット上でアクセスが増えるように試みる事、フェイスブックの立ち上げ、関心が高いと思われる特定のテーマでのセミナー開催、ちらしやニュースレターをもっと魅力あるものにする事などの案が出て、検討を試みることにした。6月の講演会は6月14日(土)(6月21日より変更)に開催することにした。

## II. 年会費値上げのお知らせと会費納入のお願い

2013年度国際看護研究会第16回総会におきまして、当研究会の経済的基盤の安定のため2014年度から一般会員の年会費を2,000円から1,000円値上げし3,000円とすることが可決されました。(学生会員の年会費は2,000円の据え置きとしております)

また、本年3月の運営委員会にて、2014年度から大学院生は一般会員とすることが決議されました。

つきましては、新年度を迎えるにあたり年会費をご請求させていただきます。下記のとおり同封の払込用紙にてご納入くださいますようお願い申し上げます。

会員各位には、ご負担が増しますが、本会の諸活動の充実に力を入れていきたいと考えておりますので、今回の会費値上げにご理解を頂くとともにご支援とご協力を頂きますようお願い申し上げます。

1. 新年会費 一般会員(大学院生を含む) 3,000円

学生会員 2,000円

(2014年度会費は2014年7月末日までにご入金下さい)

2. 年会費振込先(同封の払込用紙をご使用ください)

国際看護研究会 ゆうちょ口座番号 00150-6-121478

3. 振込用紙の通信欄にご記入いただく内容

### 【一般会員の方】

- ・一般会員の□に印を入れる
- ・会員番号
- ・会費の納入年度

### 【学生会員の方】

- ・学生会員の□に印を入れる
- ・学校名、学部学科、学年
- ・会員番号
- ・会費の納入年度

\*振込金額3,000円を2,000円に修正してください。

### Ⅲ. 第 72 回国際看護研究会講演会報告

第 72 回の講演会は 2014 年 3 月 16 日(土)に国際協力機構研究所(JICA 市ヶ谷研究所) 203 号室にて開催されました。講師の石井美恵子氏(北里大学看護学部 臨床看護学准教授)より「災害時の国際医療支援活動の経験」をテーマにご講演いただきました。

#### 講演抄録

テーマ：「災害時の国際支援活動の経験」

石井 美恵子

東京医療保健大学東が丘・立川看護学部

はじめに

災害時の行政対応や医療支援活動は、毎日繰り返し経験し、実践能力を向上させていくことができるというものではない。ゆえに、事前対策や教育・訓練の重要性ということが指摘され、その事前対策や教育・訓練は、実際の経験によって立つところとなる。しかし、災害医療の領域に関わってきたものとして、この経験についての注意が必要だと感じている。

災害という出来事は、人々に非常に大きなインパクトを与える。そのインパクト大きさが人々の心を突き動かし、他者に伝え今後の備えとしてほしいという願いが生まれるように思う。その結果、自身の体験談を語り継ぐという活動が広く行われるが、しかし、自身の体験談だけでは、経験則の範囲を超えることはできず、普遍的な教訓を生み出すプロセスにはつながらない。

これまでの国内外での災害時医療支援活動を経験し、その経験に考察を加えながら再構成を行ってきたプロセスを紹介し、災害看護の実践に求められる能力について述べる。

#### 【経験の再構成】

1995 年米国での災害対策に関する研修を受講したのが災害医療との出会いであった。その後、医療従事者向けのトリアージ訓練や災害時の初期対応訓練などの教育指導に携わったが、実際の経験をもたないことでの説得力の無さを感じ 2003 年 JICA 国際援助隊医療チーム(以下、JDR)の登録者となった。登録直後に発生した 2003 年イランバム地震が初めて派遣であった。派遣時は、救急看護認定看護師でもあり、またイランに在住した経験もつことから被災者のいのちと生活を守るために看護師としての能力を存分に発揮したいという思いを持って現地に赴いた。しかし、実際の活動は、いわゆる外来診察の補助、資機材の管理などが中心で、看護師としての専門的な役割機能とは何かという疑問を持ち帰る結果となった。その疑問を解決すべく研究に取り組み、見出されたものは被災者のために役立ちたいという思いで関心と気遣いを寄せ、手を差し伸べる看護師たちのありようであった。

しかし、その結果からは、看護活動による成果につながるような実践を見出すことはできなかった。そして、その後に派遣となった 2004 年スマトラ沖地震・津波災害、2007 年インドネシアジャワ島中部地震の経験の中で、災害看護とは何かという問いを持ちながら経験の再構成を続けた。そして、制限の多い環境の中での制限された看護活動ではあるものの、被災者の健康回復や維持、被災地域の医療保健に関する対応能力向上へ向けた支援に最善を尽くすこと、特にヘルスプロモーション領域への介入が重要であるという見解に達した。そして、派遣前の教育が重要であるとの認識から JDR での看護職向けの研修内容を大幅に改定し現在に至っている。

### 【災害看護の実践に求められる能力】

平時にできないことは、災害時にもできない。これまでの災害支援活動を通しての一つの結論である。災害看護は、平時の医療機関で展開されるルーチンワークとは様相が異なり、ケースワークの連続である。環境破壊と文明が崩壊したフィールドで、混乱と不確かさの中で繰り返される意思決定の連続である。そこで重要なのは、考える力、論理的な思考能力である。平時に情緒的思考に傾倒している人が、災害時だけは論理的なるなどということは起こりえない。看護職である自分は何をするためにそこにいるのか、そのために何をしなくてはならないのかを、常に自分の頭で考えることが強く求められるのが災害という出来事である。そして、看護職としての効果的なはたらきを実現するためにも、または本分を見失わないためにも、考えるための拠り所や羅針盤としての看護哲学や看護理論というものが重要であると確信する。

手段や方法といったテクニカルなことに埋没しているように思われる看護というものの本質とその目的を看護職自身が確信して被災地に立つことによって、被災者のいのちと生活を守るはたらきが実現できるものと考えられる。





おわりに

今回、国際看護研究会での講演の機会をいただき心より感謝申し上げます。現在、福島県で長期的な支援活動を行っている看護師の方が参加していただき、復興の途上にある被災地で感じている課題などについて活発な質疑がなされたことも貴重な経験であった。

同じ領域、同じ活動フィールドの垣根を越えて、情報や経験を共有できることは視野を広げ、視点を変えるきっかけともなり得る。国際看護研究会の活動に敬意を表するとともに、益々のご発展を祈念申し上げます。

#### IV. 第73回国際看護研究会講演会のお知らせ

日 時：2014年6月14日（土）13：00～15：00（12：45～受付開始）

会 場：国際協力機構研究所（JICA 市ヶ谷研究所） 203号室

（所在地：東京都新宿区市谷本村町10-5）

テーマ：「オーストラリアの性犯罪とそのサポート」

性犯罪はオーストラリアや我が国だけでなく世界的にも大変深刻な犯罪であると位置づけられています。女性は6分間に一人レイプを受けているという報告もあります。しかし、この性犯罪はとてもプライベートな問題であり、多くの犠牲者は誰にも助けを求めることができず一人で悩み、法的・医療的サポートを受けることなく見過ごされることが多くあります。今回、1例として、オーストラリアのビクトリア州の性犯罪の実際と、それに関連する法的サポートや医療サポートのしくみを紹介します。

講 師：黒岩 美幸氏（東京医科大学医学部 看護学科助教）

参加費：本会会員無料・非会員500円

\*事前申し込みは不要ですので、どうぞお気軽にご参加ください。

#### IV. 国際看護研究会第17回学術集会のお知らせ

学術集会会長：磯邊 厚子 氏（聖泉大学）

テーマ：ヒューマンケア、民族・文化を超えて

日程：2014年9月27日（土）10：00～17：30（受付開始9：30～、開会10：00～）

会場：JR 京都駅前「キャンパスプラザ京都」

（〒600-8216 京都府京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町939）

第17回学術集会ホームページ：<http://jsin2014.web.fc2.com/>

第17回学術集会に関するお問い合わせ先:e-mail：[kokusaikango2014@gmail.com](mailto:kokusaikango2014@gmail.com)

#### V. 皆様へのお願い・お知らせ（事務局より）

いつも本研究会の運営にご協力いただき、ありがとうございます。

##### 1. 2013年度の会費をまだ納めていない方は、至急お振込をお願い致します。

新年度の会費納入が開始されました。2013年度の会費を未納の方は恐縮ですが、至急、お振込みをお願いします。研究会は会員の皆様からお振込頂く年会費により運営されています。納入年度は封筒の宛名の右下に会員番号とともに記載されています。また、事務整理の都合上、振込用紙に会員番号もご記入をお願いします。

年会費振込先：国際看護研究会 ゆうちょ口座番号00150-6-121478

2. 国内外に転居された方もいらっしゃるかと思います。最近転居先不明で戻ってくる場合が多くなっています。

転居された方は研究会事務局 E-mail(kokusaikango@iris.ocn.ne.jp)あてに新住所をご連絡下さい。尚、海外にも NEWSLETTER をお送りしています。

3. NEWSLETTER の「海外情報」に掲載する記事を募集しております。会員の皆様の活動報告、活動国の様子、医療事情、あるいは旅行記など海外に関する情報をお待ちしております。
4. 会員の皆様からのご意見を反映して研究会の活動の更なる改善を図りたいと思います。講演会のテーマ、NEWSLETTER についてなど、本研究会へのご意見をお聞かせ下さい。
5. 第 16 回学術集会抄録の残部があります。ご希望の方はその旨明記の上、抄録代として 500 円、郵送代として 80 円の合計 580 円分の切手(80 円までの小額切手でお願いします)と返送先を書いた A4 サイズ用の返信用封筒を事務局までお送りください。

---

※個人名で書かれた原稿内容は研究会の意見を反映するものではありません。また、ニュースレターの記事に関して無断転載を禁じます。皆様のご理解をお願いいたします

# JSIN Newsletter